

[遺伝資源の収集・評価・保存]

アサガオ 4 本植え行灯仕立によるグリーンカーテンの実証

田旗裕也

(江戸川分場)

【要 約】 4 本植え行灯仕立アサガオをコンテナ植栽したグリーンカーテンは、東京 2020 パラリンピック開催期に草丈 2 m 以上となる。生育と観賞性は普通土より人工培土が適し、特に東西方向のネット展帳場面で、目線より低い高さで均一な開花が期待できる。

【目 的】

これまでに、地植えおよびコンテナ植栽したアサガオポット苗の生育・開花量を明らかにした。本年度は、「入谷朝顔市」販売用の 4 本植え行灯仕立をコンテナ植栽したグリーンカーテンの実用性を容器・用土を交えて評価する。また、オリパラ開催期間中の街路設置を想定し、ネットの南北・東西展張方向の影響を明らかにする。

【方 法】

青斑入蟬葉「暁の紅、〃桃、〃海、〃夢」の 4 品種を供試し、5 月 1 日播種で行灯栽培（5 月 30 日から 4 日間連続で 14 時間暗期のシェード処理）を行った。朝顔市翌週の 7 月 10 日に屋外に設けた所定容器・用土に植栽し、垂直のジュート製ネット（幅 1.8m×高さ 3.6m 15cm 角 日本マタイ製）へ自然誘引させた。容器は薄層パレット（外寸 L0.9×W0.9×d0.15m）とプランター（0.69×0.32×0.33m）の 2 種、用土は普通土（赤土：腐葉土：ピートモスの容積比 3：1：1）と人工培土「ビバソイル（東邦レオ）」単用の 2 種類を用いた。全区とも用土量は 30L、基肥はエコロング 140 タイプ 5 g/L に統一した。容器、用土、カーテン展帳方向（南北と東西）を組み合わせた 4 試験区を設け 10 月まで管理した。

【成果の概要】

1. 7 月 24 日は、つるがネットに巻きつき始めた段階で、地上高（草丈）は 65cm、開花位置は行灯最上段+10cm の位置だった。8 月下旬には、全区とも各地上高に花が点在する高さ約 2m のグリーンカーテンとなった（図 1）。
2. 行灯 1 鉢あたりの日開花数は、7 月中は約 5 花で一定に推移し、8 月以降は中旬をピークに約 10 花まで増加した。全区とも 8 月 15 日から 1 週間の開花数は減少したが、4 区（プランター+ビバソイル（南北））は、他区に比べ多い開花数で推移した。8 月 25 日以降の開花数は 2 区（プランター+普通土（南北））が少なく、9 月以降は明らかに 1 区（薄層パレット）の開花数が多く推移した（図 2）。
3. 8 月 30 日の開花数は 2 区（プランター+普通土（南北））が顕著に少なく、150cm 以上の着花割合が少なかった。草丈は各区とも 200cm 以上だったが、東西展帳した 3 区は草丈 3m に達し、100~175cm の高さで均一に開花した（図 3、4）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 10 月撤去時の重量はジュート製ネット込みで 2 kg 以下だった。
2. グリーンカーテンでの利用は、設置密度の検討と時期別観賞性評価が必要である。

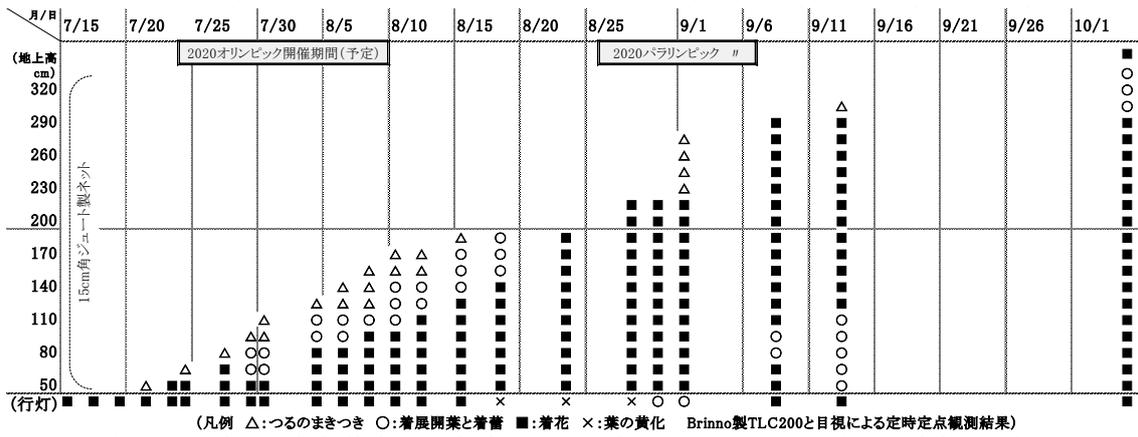


図1 4本植え行灯仕立てアサガオによるグリーンカーテンの草丈(地上高)と花葉着生状況の推移
(凡例 △:つるのまきつき ○:着展開葉と着蕾 ■:着花 ×:葉の黄化 Brinno製TLC200と目視による定時定点観測結果)
(暁シリーズ4本植え行灯仕立てを7/10に定植 4区:プランター+ピバソイル(南北)の平均 n=10)

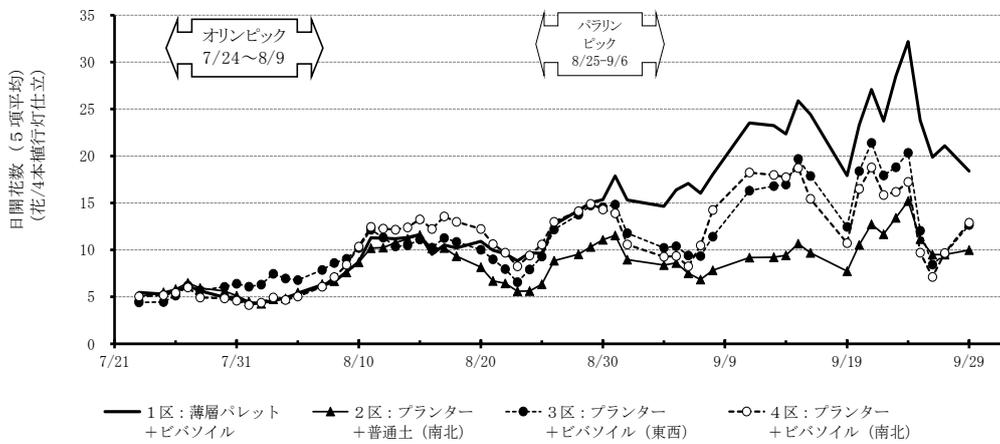


図2 4本植え行灯アサガオを用いたグリーンカーテンにおける開花数推移と容器・用土・ネット展帳方向の影響

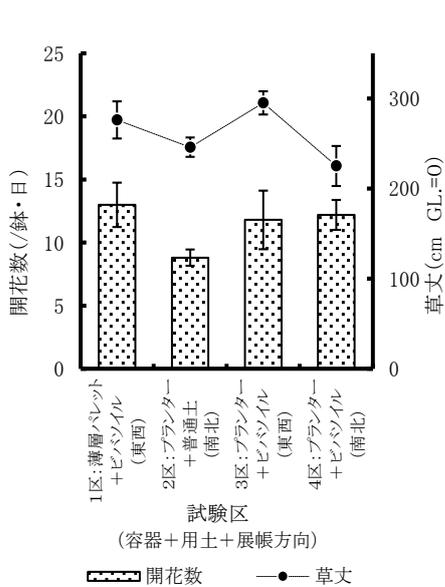


図3 2017年8月30日におけるグリーンカーテンの開花数と草丈
(図中の上下線はSE. n=5~10)

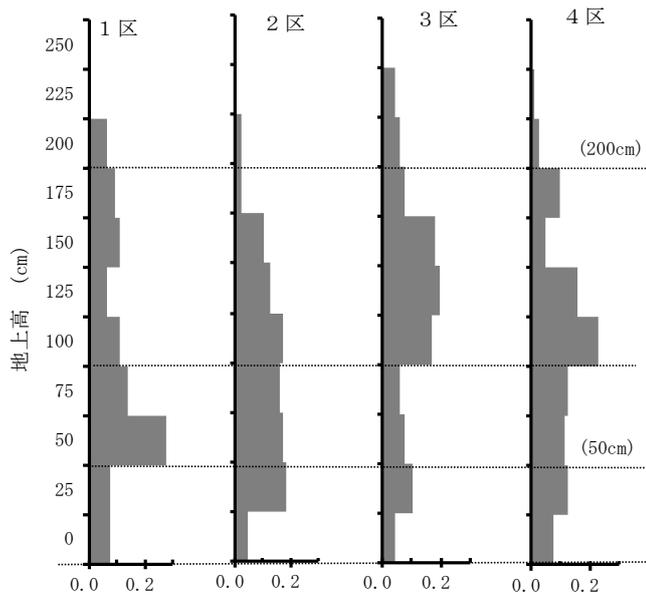


図4 グリーンカーテンの開花位置と容器・用土・カーテン展帳方向(2017年8月30日 相対度数分布)
(区番号は図3と同じ n=5~10)